



健康

health

01 認知症不安ゼロ

#9月は認知症月間 #オレンジの世界

「認知症不安ゼロのまち」の実現を目指す大府市は、2017年12月に全国初となる認知症施策の基本条例制定し、2022年7月に認知症サポーターの養成2万人を達成するなど、さまざまな取り組みを展開してきました。そして2024年8月、「認知症ヘルプマーク」を発表しました。このマークは、認知症の方が身に着けることで周囲の人々が気軽に手を差し伸べられる支援の輪が広がることを狙いとしており、全国展開を進めています。

大府市では、この認知症ヘルプマークをラバー素材のバスケースにデザインし、認知症の方やその疑いのある方に配布しています。このマークを付けている方がまちを一人で歩いているときや一人で困っているときには、見守りや声掛けをお願いします。認知症は、65歳以上の約5人に1人が発症すると言われており、誰もが当事者になり得ます。認知症による事故などを未然に防ぎ、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。



OBUオレンジリングモニュメント



2024年8月、プロ・アマを問わず認知症ヘルプマークのデザインを募集したところ、293点の応募があり、その中で特賞に輝いた牧野さくらさん（岐阜県・専門学校生・発表当時20歳）のデザインを採用しました。

このデザインは、黄色が表す認知症の人に、白色が表すまちの人が温かく手を差し伸べる様子を表現し、遠くから笑顔に見えるよう設計されています。